

令和8年度 全国学力・学習状況調査について

<国語の調査結果に見られる特徴と現状>

全体として全国平均を上回っている。特に、思考力、判断力、表現力等の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」の正答率が高かった。

課題としては、言葉や文章の一部、挿絵等を切り取って判断していて、全体を正しく理解できていないまま解答している児童が多かった点が挙げられる。また、漢字を答える問題の正答率が低かった点も課題である。

<算数の調査結果に見られる特徴と現状>

全体として全国平均を下回ったが、領域で見ると、「C測定」と「Dデータの活用」の正答率は全国平均に近い結果となった。

課題としては、国語同様、問題文をよく理解せずに解答し間違えている児童が多かった点が挙げられる。また、基礎・基本の定着が十分でない児童がいる点も課題である。

<児童質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

教科を中心とした学力・学習状況においては、半数以上の区分で全国平均を上回っている。特に、「英語に関する意識」、「算数の学習活動」については相対値が高かった。一方で、「国語に関する意識」、「算数に関する意識」については相対値が低かった。

その他の学力・学習状況においても、半数以上の区分で全国平均を上回っている。特に、「ICTを活用した学習状況」、「学びの自己調整」については相対値が高かった。一方で、「主体的・対話的で深い学び」、「向社会性」については相対値が低かった。

<これからの具体策>

(授業における具体策)

- ・校内研究として、「基礎基本の確かな定着を図り、主体的に学ぶ児童の育成」を研修主題に授業研究を進める。
- ・全校で統一して文章読解ドリルを購入し、朝学習で取り組む。
- ・読書に親しむ機会を充実させる。(読み聞かせ、並行読書等の工夫)
- ・情報量が多い問題も取り入れる。
- ・四則計算の交じった計算問題など、算数に限らず複合的な問題も取り入れる。
- ・問題自体は簡単だが、よく読まないと間違えてしまう(引っ掛け問題)問題も取り入れる。
- ・まとめを書かせる際に、いくつかの条件をつけて書かせる。
- ・ミライシード等の学習アプリを有効活用していく。
- ・引き続き、分かりやすい授業を目指して、教材研究を進めていく。

(その他の具体策)

- ・ティーム・ティーチングや習熟度別の学習時間を設ける。
- ・地域学校協働活動推進委員や社会福祉協議会等に協力を依頼し、月2回の放課後学習教室を実施する。また、授業中の学習サポートをお願いする。
- ・友達との関わりを深める協働的な学習や異学年交流、学級活動を計画的に実施し、よりよい人間関係の形成を図る。
- ・SSW、SC、相談室、校内教育支援教室等との連携やコミュニケーションを大切にし、多くの目で児童を見ていく。